

吹田市地域医療推進懇談会の 進捗について

健康医療部 地域医療推進室

1 目指す姿と検討すべき対策の柱

目指す姿

- 将来の在宅医療の医療需要に見合った在宅医療の供給体制の整備
 - 医療関係者及び多職種の連携により、安心して質の高いケアの提供体制の構築(※)
 - 在宅医療やかかりつけ医等についての市民理解の促進
- (※)在宅医療・介護連携推進事業とあわせて推進

1 在宅医療を支える連携体制の構築

- ①医師の在宅医療に対する負担軽減のための連携体制の検討
(医師のグループ化等による連携や引継ぎ等)
- ②訪問看護の事業所間の協力支援体制の構築(ネットワーク化)
- ③病病連携・病診連携等の促進
急変時における入院受入れ体制の検討(バックベットの問題)、
情報共有による連携促進の工夫(地域連携パス・ICTの研究・医療資源等のリスト化)
病院連携室の対応の均てん化 等

2 医療関係者等の理解や知識・スキルの向上

在宅医療や在宅療養、在宅看取り等についての
知識や理解、技術の向上
(診療所医師・病院医師・病院看護師・退院支援担当者・
薬剤師・歯科医師・施設職員等)

3 市民への啓発・情報提供

適正な病床機能やかかりつけ医、在宅医療
という選択肢、最期の迎え方等について、市
民啓発や情報提供のあり方の検討

2 平成29年度の主な進捗状況（検討すべき対策の柱 1-③及び3）

1 在宅医療を支える連携体制の構築

③ 病病連携・病診連携等の促進（急変時における入院受入れ体制等の検討）

急変時における入院受入れ体制等の病診連携や、患者の状態に応じた機能を持つ病院への転院などの病病連携について、作業部会を設置し、ご議論いただいた。

作業部会での意見等

- (1) 急変時入院の受入先を分散し充実させるために、市内各病院の受入体制や受入可能な条件などを診療所に情報提供してはどうか。
- (2) 高度急性期病床を持つ病院から、ポストアキュートの患者の流れを円滑にするために、高度急性期病床を持つ病院から医療や看護のスキル向上のための支援を受けるしくみがあればいいのではないか。

具体的な対応策

- 診療所医師に情報提供するため、市内病院の在宅療養患者に対する対応や受入等に関する一覧等を作成。医師会を通じて会員に配付いただいた。
- 医師会の協力を得て勤務医部会にて、提供可能な医療や看護の内容、及び提供希望される医療や看護の内容についてのニーズ把握のためのアンケートを実施。具体的なしくみ等について、今後も引き続き懇談会で検討する予定。

2

3 市民への啓発・情報提供

地域医療推進に関する市民シンポジウムの開催

病床の機能分化と連携を踏まえた適切な受診行動の推奨や、かかりつけ医等の定着促進、及び在宅医療の現状理解や意識の向上など、地域医療全般の推進を目的として、市民が医療との関わり方や、地域医療の在り方等について主体的に考えることができるよう、基調講演とシンポジウム形式による市民啓発を行いました。

○日時：平成30年2月3日（土）午後1時から3時45分

○場所：吹田市勤労者会館 大研修室

○内容：基調講演 「地域医療構想・医療計画が求められているのは何故か」
～今 日本が直面する危機～
講演者：今村 知明氏（奈良県立医科大学公衆衛生学講座教授）
シンポジウム「テーマ①病院の機能と役割分担」
「テーマ②在宅療養を支える医療体制」
コーディネーター：吹田保健所長
パネリスト：吹田市医師会、吹田市歯科医師会、吹田市薬剤師会、
国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、
協和会病院、医師会立訪問看護ステーション

○参加者数：210名

3

3 平成30年度の進め方

- 懇談会(年3回)と作業部会(年3回)を開催予定。
- 作業部会では、訪問看護の諸課題についての対策案を検討。
- 対策の柱ごとに、各機関を中心に具体的な対策案や取組みについてご検討、推進いただく予定。

検討すべき対策の柱	機関	検討事項・取組みの概要
1 在宅医療を支える連携体制の構築	①医師の在宅医療に対する負担軽減のための連携体制の検討	医師会高齢者対策委員会等 実現可能な医師の代理体制、重症化した方の対応可能な診療所の紹介、強化型在宅診療のためのグループ化等について引き続きご検討の予定
	②訪問看護の事業所間の協力支援体制の構築	介護保険事業者連絡会(訪問看護部会)と市 作業部会 人材確保や事業所間及び病院看護師等との連携についての具体策を検討していく
	③病病連携・病診連携等の推進	懇談会 病院の在宅療養患者への対応状況についての情報提供、医療や看護のスキル提供を介した病病連携のあり方等について、懇談会等にてご協議いただく
2 医療関係者等の理解や知識・スキルの向上	在宅医療や在宅療養、在宅看取り等についての知識や理解、技術の向上	懇談会構成各機関 他機関の例を参考にされながら、各主体において、自院及び広く自院以外の医療関係者も対象とするような研修会等を引き続き実施・ご検討いただく
		市 (仮)病院医師及び看護師対象の研修会の検討
3 市民への啓発・情報提供	市 懇談会構成各機関	市主催の講演会の実施予定 各主体も市民に向けた啓発の実施をご検討いただきたい

4

4 平成30年度の主な取組(検討すべき対策の柱 1-②及び3)

1 在宅医療を支える連携体制の構築

② 訪問看護の事業所間の協力支援体制の構築(ネットワーク化)

これまでの懇談会での意見等

- 在宅医療における訪問看護の果たす役割は重要であるが、訪問看護の人材確保や人材育成、事業所同士あるいは病院との連携等についての課題がある。
- 病院医師や看護師等の在宅医療に関する理解促進や退院支援の充実も課題である。
- 一部の病院において病院も在宅医療の一員であるとの認識のもと、病院看護師と訪問看護事業所等との連携についての取組も増えている。

吹田市地域医療推進懇談会に作業部会を設置予定

構成員: 懇談会参画病院の看護部より5名(大阪大学医学部附属病院、国立循環器病研究センター、市立吹田 市民病院、済生会千里病院 済生会吹田病院) 吹田市介護保険事業者連絡会訪問看護部会より2名
大阪府訪問看護ステーション協会豊能ブロック教育ステーションより1名
大阪府吹田保健所より1名

作業部会での論点: 訪問看護師の人材確保及び人材育成について
病院看護師と訪問看護師の連携について 等

開催回数: 3回

5

3 市民への啓発・情報提供

吹田市地域医療推進市民講演会の開催

超高齢社会に対して、自身やその家族が長期療養を要する状態となった時にどう過ごすのかということ、今から考え、在宅で療養するという選択肢もあるということを知っていただくために、在宅医療の具体的内容について理解促進を目的として、講演会形式で広く市民に啓発するものです。

○日時 : 平成30年7月14日(土)午後1時30分から3時30分

○場所 : メシアター 集会室

○内容 : テーマ 「知っていますか？在宅医療について」～在宅療養という選択肢～
講演「在宅医療について ～在宅療養という選択肢～」
講演者: 沖代 奈央氏(おきしろ在宅クリニック)

講演「地域に寄り添う訪問看護」

講演者: 上山 美紀氏(吹田市介護保険事業者連絡会訪問看護部会
協和会訪問看護ステーション所長)

※その他、本市の在宅医療に関する状況(地域医療推進室職員)、
在宅療養を支える介護体制(高齢福祉室職員)について説明

○定員 : 130名